

## 校内研究計画

### 1. 研究主題

学び合い、認め合うなかで一人一人の表現が生きる授業づくり  
～のびのびと想いを伝え、力いっぱい書く活動を通して～

#### (1) 主題設定の理由

本校では平成25年～27年度に算数科を中心とした「かかわり合い」をテーマにした研究、平成28年度～30年度には国語科を中心とした「読解力・表現力」をテーマにした研究に取り組んできた。以下、簡単に概要を述べる。

〈平成25～27年度の研究概要〉

研究主題「かかわり合いの中で、どの子もわかる楽しさが実感できる授業の創造」

(副) ～交流活動を通して～

特支「児童一人一人に応じた生きる力をはぐくむための特別支援教育の実践」

(副) ～生きる力を育てる小集団ならではの交流活動を通して～

→主な取組：効果的な交流活動、ノート指導

→成果と課題：思考力、表現力の高まりに成果があった。読解力、表現力を更に高めたい。

〈平成28～30年度の研究概要〉

研究主題「共に学び、豊かに表現する子どもをはぐくむ授業づくり」

(副) ～確かな読みが伝え合う楽しさにつながる国語科の指導を通して～

→主な取組：読解力系統表、読みの手立て、見通しを持たせる課題と単元構成

→成果と課題：目的を明確にした教材研究の視点、手立ての具体化ができた。読解力の評価と見取りが難しかった。

以上のように、児童の実態から課題点や目指す子ども像を話し合い、研究を積み重ねてきた。本年度も、これまでの実践を大切にしながら、子どもたちの育ちを支え、教師の指導力向上を目指して研究に取り組んでいきたいと考える。昨年度までの研究では、よりよい表現力（アウトプット）につなげるため、自分の考えの形成の手段として読解力（インプット）の向上を目指してきた。そこで、本年度は、「交流」「ノート」「読解」の研究から培ってきた土台を基に、より「表現力」へ重きをおいた研究に取り組んでいきたいと考える。副題にある「書く活動」からのアプローチを中心に、様々な教科、活動、集団と個のかかわりといったものにも目を向けて研究を広げていきたい。

## (2) 主題について

昨年度までの実践、成果や課題を受け、「表現力」の向上を意識した主題となっている。また、表現力を培うことはもちろんであるが、一人一人の表現や表現したものが集団のなかで活かされることで、一人一人が認められる集団の育成を意図したものである。そこには、一人一人の個性や発達に応じて適切な教師のかかわりや見取りがなされなければならない。また、一人一人の見取りをもとに、個と集団をつなぐ役割が期待される。個が生きれば集団が高まり、集団が高まれば個が生きる。個を生かし、集団に価値づけていく日常の継続した取組が望まれる。

主題では「表現」とし、様々な教科や活動における取組の幅をもたせた。そこで、副題に「書く活動」と位置づけることで、今年度の取組の焦点化を図りたいと考える。国語科はもとより、様々な教科や活動でも「書く活動」の場面が予想される。日常の取組とも関連させることで習慣化し、自分の思いをのびのびと素直に書き表せるような姿を期待するとともに、それらが子ども自らの自主的自立的な姿勢につながるような指導の在り方を追求していきたい。

### 一人一人の表現が生きる授業づくり

一人一人が学習し経験し考え、それを表して終わり…ではなく、一人一人の表現を見取り、適切に評価し、または共有していく。その表現が活かされることで、その子どもが認められ生きる授業となる。授業は「場面」「環境」などとおきかえてもいい。

・・・教師のかかわり

### のびのびと想いを伝え、力いっぱい書く

のびのびと想いを伝え、書くことは容易なことではない。各学年や一人一人にそれぞれ違う課題があるであろう。書くことの技能の向上だけでなく、書くことで仲間とつながりあうこと、自分を律し自立していくことへの支えとなりたい。

・・・自分自身とのかかわり

### 学び合い、認め合う

表現するということは、相手に伝えるということ。伝えたい対象を意識するからこそ、自主的な表現となる。子どもの内面から出てきたもの（表現）を、交流したり認め合ったりする中で、学び合いが生まれそれらの表現がより深化する。

・・・集団とのかかわり

## (3) 学校教育目標とのつながり

○学校教育目標「自ら考え、心をこめて精いっぱいやりぬく子どもを育てる」

- ・「強いからだの子ども」 ……体育等での表現活動を通して、からだづくりにつなげる。
- ・「よく考える子ども」 ……書く活動を通して、よく考える習慣づくりにつなげる。
- ・「なかよくする子ども」 ……友達との関わりを通して、認め合う集団づくりにつなげる。
- ・「進んで仕事をする子ども」 ……想いを伝える授業を通して、主体的な姿勢を養う。

## 2. 目指す子ども像 主題を追求するために、どんな子どもの姿を期待するのか。

研究主題を受け、具体的な子ども像を設定することで、日常の実践や授業づくりのポイントを焦点化していきたい。そのため3つの子ども像を設定した。

### I. 伝えたい想いや考えを、のびのびと表現する子ども

自分が伝えたいことや考え、願い、工夫、主張などを、素直に表現できることで、子どもが自分らしく生きることができるのではないか。また、自分の伝えたいものを認めてもらえることは、自分の存在意義、安心感、自己肯定感を育て、自立につながっていくのではないだろうか。

### II. 表現することで自分自身の考えを深め、広げる子ども

自分の考えや思いを表現することは、自分のまわりに起こる出来事や体験したこと、これまでの知識などを組み合わせて言語化（具象化）する作業である。表現の中でも、非言語的な事象を言語化する（言葉で考える）ことで思考が深まり、また、振り返りも可能となる。

### III. 友達の考えや表現のよさを認め、共感できる子ども

自分の考えや思いを主張できればよいわけではない。その方法や手段がちがっていたとしたら、それは利己的・排他的で暴力的な言動にもなりかねない。相手の気持ちを思いやったり、想像したり、自分とは違う考えがあることも認めたりできることが大事なことでないだろうか。

## 3. 研究仮説 目指す子ども像に近づくために、どんな仮説をもってせまるのか。

目指す子ども像に近づくために、以下の3つの仮説を立てて追及・検証していきたい。

（子ども像Ⅰ、教師のかかわり）

仮説1. 教師が見取り励ますことで、子どもは自分の思いを素直に表すことができるようになるであろう。

（子ども像Ⅱ、自分自身とのかかわり）

仮説2. 思いや意図、振り返りを書くことで、子どもが自分自身への気づきを深めるであろう。

（子ども像Ⅲ、集団とのかかわり）

仮説3. 読み合うことで、自分のよいところに気づいたり、友達への共感を高めたりすることができるであろう。

## 4. 研究内容

仮説を検証するために、どんな実践を積み重ねていくか。

### (1) 年次計画

1年次（平成31年度）	2年次（令和2年度）	3年次（令和3年度）
「表現が生きる授業づくり」 ～思いを込める～	「表現が生きる授業づくり」 ～思いを広げる～	「表現が生きる授業づくり」 ～思いをつなげる～
研究主題・仮説の設定 研究計画、組織化 今年度の重点と実践 研究授業、成果と課題	研究計画の修正 今年度の重点と実践 研究授業、実践レポート 成果と課題	研究計画の修正 今年度の重点と実践 研究発表、実践レポート 研究のまとめ、研修集録作成

### (2) 指導の視点 ※2と3は互いに補完的に、同時的（個⇄集団）にも行われる。

1. 教師のかかわり	2. 自分自身とのかかわり	3. 集団とのかかわり
①日常的な活動の継続	①書くことの習慣化	①みんなでやる
②作文の技術指導（焦点化）	②書き方を知る	②課題のある授業
③見取り	工夫、その子らしさ	③友だちの表現の工夫
	意図	伝えたいことを明確に
	変化や成長	自分への気づき
④評価	知識・技能	④課題が達成されているか
	努力（過程）	取り組み方
	個人評価、相対評価	学習の振り返り、自己評価
⑤記録とファイリング	⑤日記帳、作文ファイルなど	⑤掲示物、学級通信、一枚文集

### (3) 具体的な内容

カリキュラムマネジメント

#### ①国語科における「書くこと」領域の、年間指導計画の確認

- ・国語科では年間を通してどのような指導事項があるのかを確認する。※次年度、新教科書。
- ・「技能」領域と「思考、判断、表現」領域の区別。教師側の目的意識をもつ。

#### ②他教科における書く活動と表現活動の洗い出しと、国語科との関連づけの整理

- ・他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高める。…活動の重複をなくす、効率化  
（例）社会科見学のまとめを、文章に表す。体育の学習を振り返りカードに書く。
- ・各教科における「表現」を、書く活動を通して深める。…鑑賞の評価の視点、根拠  
（例）音楽でリーダーの演奏の工夫点を書く。友達の発表を聞いて感想をまとめる。

特別支援

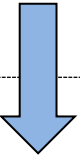
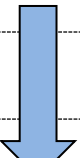

#### ③特別支援学級における指導の工夫（合理的配慮）や、交流学級とのかかわり

- ・個別の支援と見取り、集団活動にも生かす視点や手立ての工夫、担任どうしの連携

- ④研究主題を意識した、日常的な取組の選定
- ある単元、ある授業だけで終わるのではなく、年間を通して取り組めるものを。  
(例) 日記、絵日記、題材カード、あのね帳、作文ファイル、など ※週1?毎日?行事?
  - 個と集団をつなぐ手立て、環境、授業をつくる。
- ⑤見取りと評価
- 子どもの表現や書いたものをどう受け止め、見取るか。技能面と内面の成長の評価の方法。
- ⑥研究授業、実践レポート
- 全校研…ブ ロック1本、ブ ロック研…ブ ロック1本以上。授業者以外は、実践レポ-トの発表・交流。

- ⑦成果と課題の共有
- 成果と課題のとりまとめ、共有化
  - 研究集録の編集

(4) 年間の指導イメージ (例) ※「書くこと」を意識したカリキュラム・マネジメント

月	日常の取組	評価	重点的な作文教材 (国語)	他教科・行事等
4	俳句づくり 百人一首	見取り 1/3	想像を広げて日記を書く (3)	1学期の目標
5		見取り 2/3	心のスケッチをしよう (4)	遠足
6		見取り 3/3 <b>読み合い</b>	(※こころの動きがわかるように) 分けた場合 (5)	運動会
7		句会 ※あゆみ 総合	▼不思議図鑑をつくろう (10)	▼理科：春の生き物カード 1学期の反省
8	夏休みの 五七五	見取り 1/3		2学期の目標
9	俳句作り	見取り 2/3	▽見学したことを報告しよう (10)	▽社会科見学
10		見取り 3/3 <b>読み合い</b>	(※こころの動きがわかるように) 分けた場合 (5)	学習発表会
11		※あゆみ 図工鑑賞	☆順序よく説明しよう (8) **授業研**	☆開西フェスタ
12		句会 ※あゆみ 総合・道徳	★学級新聞をつくろう (6)	★総合：世界調べ (新聞) 2学期の反省
1	冬休みの 五七五	見取り 1/3 ※あゆみ 音楽鑑賞		「帯広の子ども」原稿作り
2	俳句作り	見取り 2/3 <b>読み合い</b>	心の動きがわかるように (10)	文集など
3		句会 見取り 3/3 ※あゆみ 道徳・外国		1年間の反省

(5) 授業づくりのキーワード

(自分) 技能としての書く

経験を言葉にする

自分のできごとをとらえる

思いや考えを整理する

学習内容の客観化

自主的・自立的な生き方

自分を客観視する

目標、目的をもつ

伝えたいことや意見をもつ

相手を認める

自己評価する

(読み合い) 表現としての書く

身のまわりの事象をとらえる

思いを伝える

わかりやすく構成する

集団のルール、人間らしさ

集団の一員としての自分

助け合う、協力する

相手の気持ちに共感する

みんなに認められる

相手を、公平に評価する

日常的な取組、重点的な授業  
意図、過程、結果の見取り

(教師) 技能と成長の評価



個と集団をつなぐ支援

(友達、学級)

〈一人一人の表現が生きる授業〉「個の表現」を集団のなかで「価値づける」ということ。

表現したもの(自分)が認められ、活かされることで、子どもが生きる自信となる。

また、表現されたもの(友達)を認め、活かすことで、子どもに生きる手段となる。

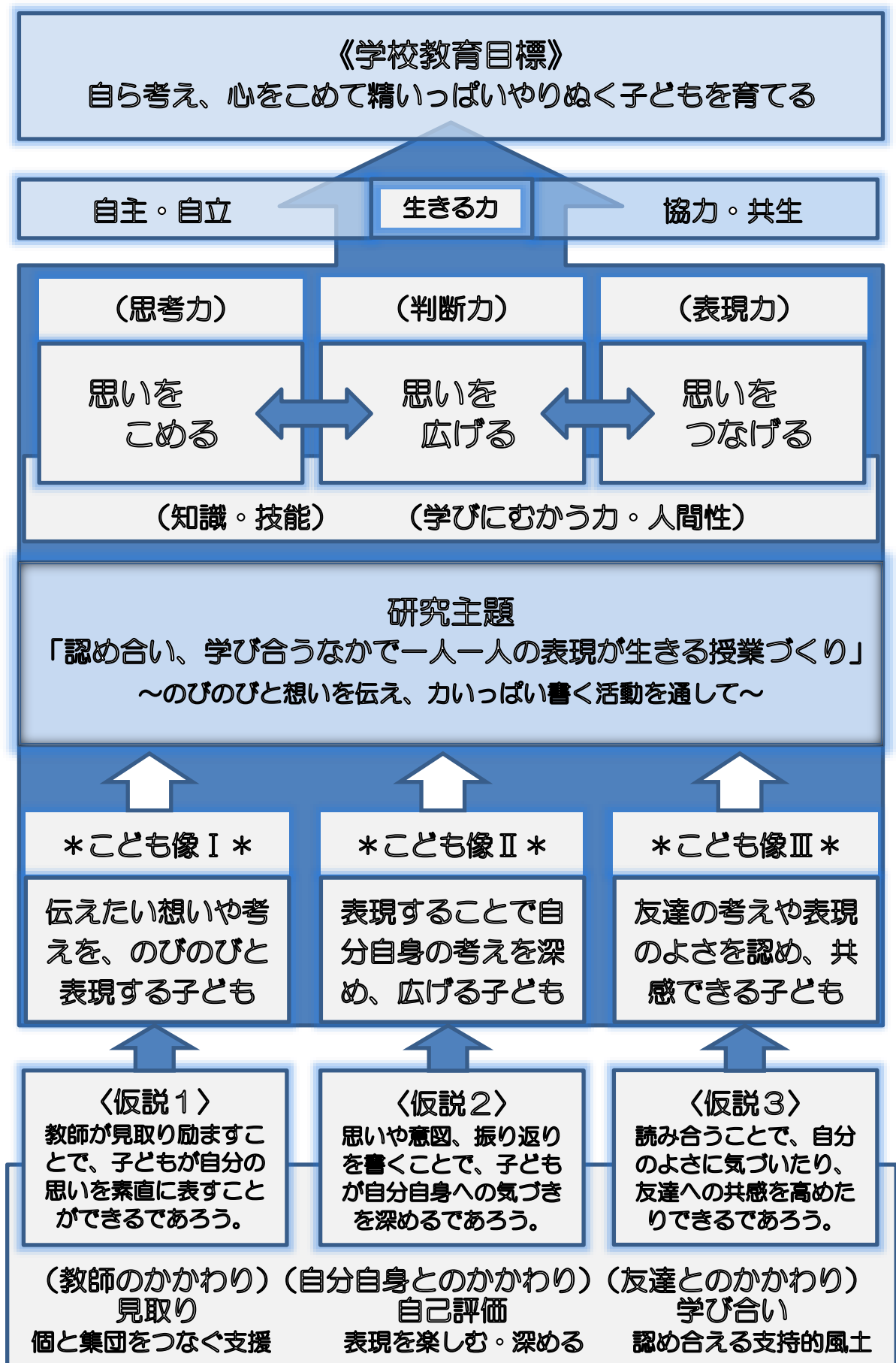
〈指導方針として〉書くことで子どもが見える。書かせることで子どもが変わる。読み合うことで教室が変わる。

※ 中学校国語教師、そして作文教師として活躍された新庄久芳氏の言葉を引用します。

「作文や詩の書きかたを勉強しながら、人間の生きかた・生活のありかたを学び合うのがめあてです。そのためには、何よりもまず、今の自分がどんなことに心をかけているのか、心をひかれているのか、そのほんとうの姿・ありかたを素直に正直に書くことが出来るようになっていかねばなりません。そして、そのように書かれたものに心から共感できる力を養うことを、大切にしていきたいと思っています。」

(一九九〇年 新庄久芳) 下線は高橋

5. 研究概要構造図



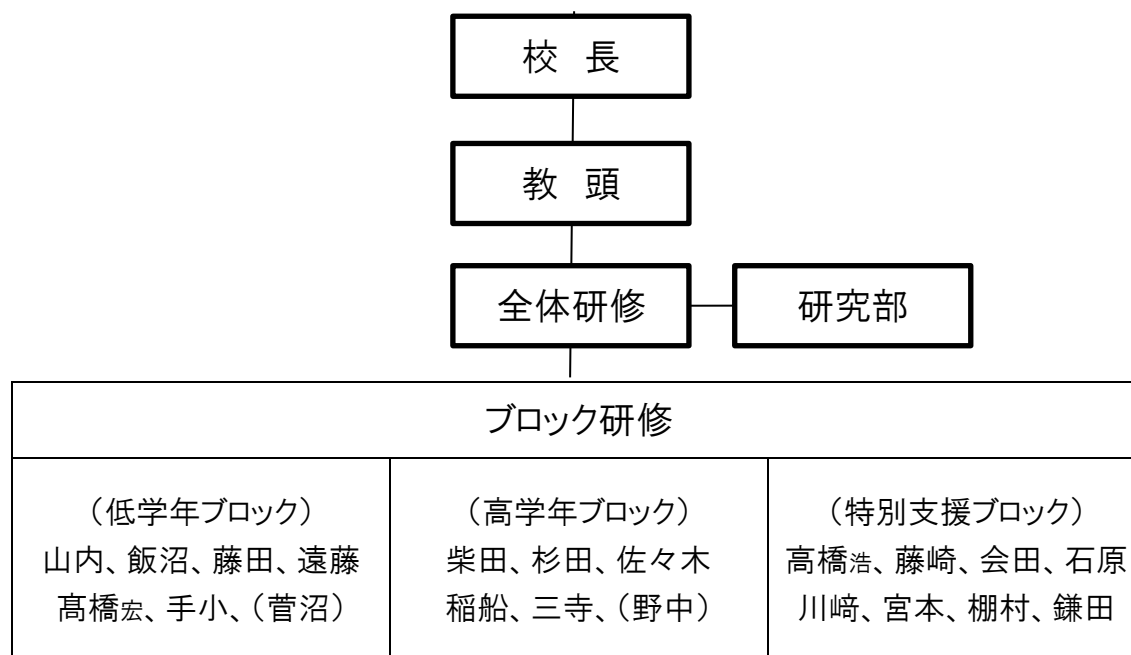
## 6. 年間推進計画

### 平成31（令和元）年度 研究年間推進計画

回	月	日	曜	時間	形態	おもな研修内容（予定）	
1	4	15	月	研修日	全体	研究主題、研究計画、ブロック体制	研究部提案 による
2		22	月	研修日	全体	研究理論	
3	6	17	月	研修日	ブロック	取組の計画、年間指導計画、等	
4		24	月	研修日	全体	授業研&授業検討、作文講習会	
5	7	1	月	研修日	ブロック	1学期の取組の実践交流、授業者選定&授業計画等	
夏季休業中					個人	2学期の計画	
6	8	26	月	研修日	全体	実技研修（実践をもちよって）	
7	9	2	月	研修日	ブロック	指導案の検討、（ブロック研事後研）	各ブロック 授業研
8		17	火	研修日	全体	授業研&授業検討、実践レポート交流	
9		24	火	研修日	全体	授業研&授業検討、実践レポート交流	
10		10	28	月	<small>（25日学発）</small> 研修日	ブロック	
11	11	11	月	<small>（職会）</small> 研修日	ブロック	指導案の検討、（ブロック研事後研）	
12		18	月	研修日	全体	授業研&授業検討、実践レポート交流	
13		25	月	研修日	ブロック	指導案の検討、（ブロック研事後研）	
14	12	9	月	研修日	全体	授業研&授業検討、実践レポート交流	
冬季休業中					個人	反省、成果と課題	
15	1	20	月	研修日	ブロック	今年度の研究の振り返り	
16	2	3	月	研修日	全体	今年度の成果と課題、次年度の方向性	



## 7. 研究組織



## 8. ブロック課題

(低学年ブロック)

伝えたいことをどんどん書こう

(高学年ブロック)

目的意識を高め、語彙や物の見方を増やして思いを深める書く力

(特別支援ブロック)

自分の思いを伝えるための書く力を養う